

遠野地域における事業体連携モデルの取組みについて

1 はじめに

森林経営管理制度の進展等に伴い、整備を要する森林の増加が見込まれる一方で、個々の林業経営体の施工能力には限界があり、地域全体での効率的な森林整備の仕組みが求められています。

遠野地域は、遠野地方森林組合が中心となって、地域内の林業経営体との連携体制をとる仕組みづくりを行いましたのでその取組を紹介します。

2 グループ創出までの取組

遠野市では令和6年度に市内の林業事業体を集め、市内の森林整備のあり方について意見交換会を開催しました。

意見交換会では、参集した林業事業体から、補助事業の活用にあたっては、遠野地方森林組合を中心として整備を進める体制を望む声が多くありました。

この意見を踏まえ、県では遠野地方森林組合を中心としたグループ創出に取り組むこととしました。

令和7年6月から12月の期間に、遠野市、遠野農林振興センター、遠野地方森林組合の3者で、連携の骨子の作成やグループの構成、役割分担等についての打合せを計5回行い、遠野地方森林組合が中心となって作業種ごとのスケジュールを作成し、市内の林業事業体の参画により遠野地域の森林整備を進めていくこととしました。

3 事業体への説明会

令和8年1月8日に市内の8事業体に対し、グループモデル創出の説明会を行いました。説明会では、遠野市から森林経営管理制度実施方針の概要のほか、遠野地方森林組合から連携グループの具体的な取組内容について説明し、グループとしての合意形成を図りました。

4 発表会等での報告

県庁森林整備課の主催により、グループ連携創出の取組事例の報告会が行われ、遠野地方森林組合の福地幸博参事兼総務課長が報告を行いました。

また、グループ連携の仕組みを遠野地方森林組合の地区座談会で組合員に説明し、遠野地域の森林整備の推進の仕組みについて理解を求めました。

5 今後の取組

今年度作成したスケジュールに基づく具体的な事業実施について、当センターでは、今後とも関係機関と連携し、森林整備のさらなる加速化に向けて取組を進めて参ります。



8事業体が参加した説明会の様子